



2023年9月3日（日）13:00～18:00

〈5日目〉

「ワークショップ④と映画視聴」

- 前半 Pepeha（ペペハー自己紹介文）を作るワークショップ
マオリの文化について説明。その後、参加者各々がマオリ語で自己紹介文を作成。マオリの文化に触れ、映画『Cousins（カズンズ）』の内容理解にもつなげるプログラム
- 後半 映画『Cousins（カズンズ）』鑑賞と質疑応答

■Pepeha (ペペハー・自己紹介文) を作るワークショップ

参加者全員がひとつの大きな輪になって、椅子に座る。

実行委員より、開催の挨拶と年鑑の紹介、ハラスメント防止のための確認事項がされた。

講師・コーディネーター・通訳者・実行委員が紹介され、開始。

○**コーディネーター** それでは一度立っていただいて、持っている紙を椅子に置いてください。マオリでは必ずすることなんですけれども、はじまりのお祈りをします。

○**タネマフタ** みなさんに来ていただいてすごく嬉しいです。「タネマフタ」の神様にお祈りをします。「タネマフタ」は森の神様です。

参加者は目を瞑り、お祈りの時間。

○**タネマフタ** では、座ってください。

参加者、座る。

○**タネマフタ** マオリの文化では、こうやって集まったときに自己紹介をします。マオリのしきたりとして、自分の姓名と自分の生まれた近くの山と綺麗な水を提供してくれる川か海の名前を言います。みなさんにもそれをマオリ語でやってもらおうと思います。

参加者には、「Pepeha (ペペハー・自己紹介文)」のためのテキストが配られている。

Pepeha (ペペハー・自己紹介文)

Ko___ Te Maunga (コ___テ マウンガ)

Ko___ Te Awa (コ___テ アワ)

Ko___ Tōku Ingoa (コ___テ インゴア)

私の山は、___です。

私の川は、___です。

私の名前は、___です。

○コーディネーター これは（このテキストは）、初歩的なものです。このあと、本格的なもっと長い自己紹介をタネマフタとブライアが示します。

○タネマフタ マオリ族は、ニュージーランドにたどり着くまでにいろんなものに乗ってきました。当時はカヌーや船に乗ってきたので、これも自己紹介に組み込まれます。コミュニティー、村の名前とミーティング会場の名前も言います。コミュニティー全体を「イウィ」（地域）と呼びます。あとは、一番大切なのは自分の先祖のことです。生まれたところに山がなければ、いま現在の一番近いところにある山で構いません。まずは、例文で練習しましょう。私が言う例文を繰り返してみてください。

山を「富士山」、川を「隅田川」、名前を「タネマフタ・グレイ」として、ペペハーの例文に沿ってタネマフタが自己紹介する。全員、復唱する。

タネマフタに続いて、マオリ語で復唱する。

○タネマフタ 自己紹介していく中で、同じ山や同じ川を見つけると繋がりを見つけることができるかもしれない。そういう発見が自己紹介を試みる意味となります。

姓と名の言い方の順序は、日本のやり方で構いません。

タネマフタ氏とブライア氏が、山・川・地域・村・ミーティング会場・先祖の名前・酋長の名前が入った長い自己紹介を披露する。

○コーディネーター 祖先の名前の他に、私が聞いたことがあるものだと、祖父母や父母の名前を入れることもあります。



参加者は1人ずつ起立し、例文に沿ってそれぞれ「山・川・名前（姓名）」を言って自己紹介をしていく。

Ko___ Te Maunga (コ ___ テ マウंगा)

Ko___ Te Awa (コ ___ テ アワ)

Ko___ Tōku Ingoa (コ ___ テ インゴア)

私の山は、 ___ です。

私の川は、 ___ です。

私の名前は、 ___ です。

○コーディネーター いま、すでに「高尾山」が2人いるなど、重なりがありましたよね。マオリは結びつきを大切にするので、共通の山や川から同じ祖先の可能性を見つけていたりするのが自己紹介で山や川を入れる意味です。

さらに、地域をあらわすイウィ (Iwi) を「県 (都道府県)」として加えて、やってみます。

63

実行委員からの提案で、発見を深めるためにさらに範囲を狭め、「市区町村」をハブ (Hapū) として織り込んでペペハーを再度作り直し、もう1度ひとりずつ発表していく。

Ko___ Te Iwi (コ ___ テ イウィ)

Ko___ Te Hapū (コ ___ テ ハブ)

○コーディネーター イウィもハブも同じだ、という人は見つけられましたか？ 身近な人を見つけるのがマオリでは大切なことです。

私が2年間、マオリの文化と伝統的な織物などを学んだときに、ペペハーをつくるのに「ファカパパ」というものが土台になるんですが、それをすごく勉強させられたんです。

自分の「山」をどう捉えるか。日本は仏教が多いですが、仏教は辿ると「○○山」となる、「本山」という言い方がありますよね、だから、家族の宗教を辿ると、まず山が

見つかることがわかりました。それから、昔はお寺は寺子屋、集会所を兼ねていて、それはイウィと一致する。

そういう風に辿って行って、私の場合は「高野山」になるんですが、じゃあその近くを流れている川はどこかとか、そういう風に私はペペハーをつくっていきました。だから、山が大切というのは、ニュージーランドも日本も通じるものがある。

また、海外に出てしまうと、実際に細かく説明しても伝わらないときがあります。そういう時に「(代表的な日本の山として)山は富士山です」と言うと日本人だとすぐにわかってもらえるので、そうすることが多いです。

このペペハーは、例えば総理大臣がスピーチをする際には2行くらいマオリ語でペペハーを行ってからスピーチに入るくらい、ニュージーランドでは大事にされています。

<参加者からの質問>

○参加者 「山」や「川」などの場所は、自分にとっての事実を言うのか、それとも自分に繋がりが深いと自分が認識している場所になるのか、それは創作になっていいのか。

○コーディネーター 「どこからやってきたか」を言う。

○参加者 例えば、先ほどのみなさんの回答のなかにも自分が住んだことがある場所がいくつもあって、それが1つではなかったとしたら。

○コーディネーター タネマフタも川を3つ言っていたり、繋げていくつか言うことでいいのかもかもしれません。本来は先祖までさかのぼって、繋がりをを見つけるものではありませんが。

それでは、ペペハーの時間は、ここまでにしましょう。

■ハカのエクササイズ

○タネマフタ ちょっとしたゲームのようなものをしましょう。

タネマフタしの指示で、ハカの簡単な所作や掛け声を思わせるエクササイズを全員で行う。

最初はクラブ（手をたたき動き）で始まる。

「ハキア」と言って1回たたく。

「ルーアハキ」と言うと2回たたく。

「タパトウイ」で3回、さらに手を丸めて空気を含む音にして1回……。

何度も繰り返し、手が痛くなったら「ネリネリ」と言って揉み手をする所作。

それらが組み合わさり複雑になっていく。

参加者はタネマフタ氏の動作を必死で追う。

最後には足の動きと掛け声も組み合わせられ、ハカの一連の動きになっていく。

○**タネマフタ** 今までで一番早くできました。日本人はリズム感がありますよね。



終わりのお祈りの時間。

○**タネマフタ** 今のお祈りで、今の私たちも繋がったし、先祖も繋がりました。先祖がまた明日の私たちも繋げてくれます。マオリの伝統工芸では「織り込む」ことをするが、これで私たちを「織り込んだ」という気持ちになりました。

■コーラリ体験の成果発表

ここまで5日間、通しで参加してきた参加者たちが、今日だけの参加者の前でコーラリを披露した。

続けて、今日だけ参加した人も交えて、コーラリのレクチャーとデモンストレーションが行われた。



○タネマフタ ここまで全て言葉を使わずに行いました。自分で考えながら動くこと。ひとつのグループになって新しいことを学ぶ際には、このやり方は青少年に対してはすごくいいことです。いつも携帯電話ばかりしている人たちは、集中すること、身体的に動くことを忘れてしまっている。自分の身体を信じる時には何も言わないでやる方がいい。

自分自身、2時間半、無言でこれを学びました。ものすごく集中力を使うので、脳を呼び起こさなければならぬ。みなさんが自分の子どもや生徒さんに教える際、コーラリでなくても、剣道でもバレーでもその他のマーシャルアーツでもいいですが、動きを

自分のなかに取り込むということを穏やかな気持ちで行ってください。地面にあるエネルギーを感じ取り、地球とつながることができます。その為に裸足でやっています。

お祈りの時間。

■映画『Cousins (カズンズ)』鑑賞

○ブライア（日本語で）私はブライアです。よろしくお願いします。（拍手が起きる）
すこし短く映画の紹介をします。観終わったあとにQ & Aを設けます。

今回のセミナーは本当にいい文化交流ができていますと思います。私たちがマオリの文化を教えるということですが、それ以上に私たちが日本の文化を学んでいます。もっともっと日本のことを学びたいと思っています。

コーラリは、マオリの文化ではありますが、私自身やったことがなくて、今回みなさんと同じように私も学びました。私が一番うまかったですね。（笑いが起きる）

1992年にパトリシア・グレイスという人が書いた本がこの映画の原作です。メラタ・ミタという有名な女性の監督と一緒にほかの人がつくる予定でした。マオリの女性を題材にした本を映画協会は扱っていなかったのので、協会は誰も見に来ないだろうと思っていました。

2016年に、この本を題材にしてやってみようと思い始め、実際に上映されたのは2021年になります。

3人の従姉妹の話です。3人が人生を生きていくなかで、小さい頃、ティーンエイジャー時代、大人になってから、それらが映画のなかで行ったり来たりします。集中して観ていないと、どの子がどの子だかわからなくなってしまうので、気を付けて観てください。

映画の視聴。



<質疑応答>

○コーディネーター それではQ & Aのセッションに入ります。

○参加者 マオリの部族間におけるルール、結婚との関連性を知りたい。結婚が土地を守る上で必然だったのか。

○ブライア 現在は、土地を守るための結婚はそこまでしていない。昔はありました。昔は敵同士だった2つの部族が、土地を守れなくなった場合に、お互い結婚するという事で2つをくっつけて土地を守ることができた、ということがあります。

○参加者 結婚した上で、争いは起きなかったのか？

○ブライア 争いがあり、2つの部族が土地を守れないときに、さらにもっと力のある別の部族がやってくるという可能性がありました。

映画の中では、他の部族ということではなく、ニュージーランド政府が大きな道路を作るなどで部族に介入してくる。何も建てられないのであれば、政府がそこを取ると言う。今の社会のルールの中では、もし政府が道路をつくらうとしたら、マオリの土地を持っていくことができます。

○参加者 その政府の動きに対してマオリは反対運動などをしているのか。

○コーディネーター しています。パブリックなものだから、他の大勢多数も使うものであれば必要だと判断されてしまう。でも、マオリ族としては自分の土地をとられたとして反対をしているということですね。

○ブライア 土地を政府に渡せば報酬がもらえるが、先祖からもらった代々守ってきた土地なので、そういう問題ではなく守っていきいたいという気持ちがある。

○参加者 ニュージーランドについて、人権問題や人権の平等性については、現代において世界的にトップクラスと言う認識があったので、今回の映画の内容についてはショックでした。

ワイタング条約（1840年にマオリ民族とイギリス王権の間で締結された条約。マオリの主権、土地の権利について当時のイギリス王権と取り決めたもの）についてなんです

が、マオリの土地をニュージーランド政府にだけは売れる、というような条約の内容について、現在のニュージーランドの人たちは、また学校教育のなかではどのような理解、解釈をされているのか？

2つ目の質問は、この映画は、マオリの女性の人生にフォーカスをしているが、女性の監督にこれを……というようなことを映画協会が言ったとおっしゃっていたので、ニュージーランド人に対しての映画の反響はどうだったのかを聞いてみたいです。

3つ目の質問が、映画の中に出てきた「1・2・3」の意味です。

○**ブライア** ワイタング条約についてはタネマフタの方が詳しいので、説明してもらいます。

○**タネマフタ** (1つ目の質問について) 学校では13～14歳の時にワイタング条約について勉強します。今はだいぶ状況が変わってきて、過去よりもマオリのことを教える機会が増えています。ただ、条約については教わるが、マオリ族についての事をそこまで習う機会はまだまだありません。

多くのニュージーランド人に、マオリの土地がどれほど取られていったのかということは知られていません。マオリとして本当のことをもっともっと伝えていきたいと思っています。

○**ブライア** (2つ目の質問について) この映画の前に、8人のマオリの女性監督による8本の短編を集めた映画が制作されました。それ以前、28年間は、マオリの女性が映画に関わる事はありませんでした。

8本の短編集の中に『ワル』という作品があるが、マオリの女性の顔がたくさん出てきます。一度にマオリの女性がそこまで描かれることはそれまでになかったので、それを観た人々は衝撃を受けました。ネガティブな意味ではなく、感動的なものでした。

○**ブライア** (3つ目の質問について) 自分を安心させるためのおまじないのようなものです。ぶつぶつと独り言のように1から10までつぶやくことで、足を地につける。色々なトラウマが自分にのしかかってこないようにするためのものです。

数え歌は、マオリのものではなく、主人公マタの創作です。自閉症というまででは無いが、それが無いと自分をキープできないという彼女なりのルールがあって、それをいつも守っていた。小説にはなく、映画での創作です。

○参加者 マザーグースのような？

○ブライア ああ、そうですね。マザーグースのようなものです。

○参加者 冒頭でいじめられているようなシーンがあって、水の中で何かを見つけたような表情があるが、それは何を見ていたのか？



○ブライア マタには、未来を予測できる能力がある。元々のいじめのシーンで出てきた赤いものが、その後の川のシーンでも出てきていて、リンクしています。彼女が将来を予想しているメタファーで、「タニファ」という、水の精霊のようなものを見ています。竜のようなイメージのものだが、実際には存在しない生き物なので、布で代用しました。

○参加者 キスシーンがなかったのは、映画のガイドラインがあったからなのか。

○ブライア (笑いながら) 作ってる時に必要がないと感じたので入れませんでした。

○参加者 最後の葬式の場面については、現在の時間なのか。

○ブライア 今現在です。

○参加者 1人の役を何人もで演じていて、皆さん似ていたが、俳優を見つけるのは大変だったか。

○ブライア 大変でした。(笑いが起きる) 全てマオリ族です。マタをはじめに探して、次にミッシー、次にマタの若い頃の役という順番でした。

○実行委員 (余談として) みなさんにシェアしたいのですが、2018年のニュージーランド特集でお呼びしようとしたレイチェル・ハウス氏と、ブライアの舞台作品『プラブラフェトゥ』に出演しているラウリ・パラティン氏がどちらもこの映画に出演している

奇遇さに驚いています。

○**参加者** ミッシーの黄色と青色と白色のビー玉はどんな意味がありますか。

○**ブライア** ミッシーが小さい時は、そんなに贅沢ができなかったから、宝物がなくて、ビー玉が宝物だった。色は子どもたちが着ていた服などとリンクしている。



○**参加者** 葬式のシーンは、西洋の葬式に見えたが、マオリの伝統的な葬式とは違うのでしょうか。

○**ブライア** マオリの伝統的な葬式だと、棺が運ばれるところでもっと多くの人が待っています。

○**参加者** 緑色は不吉な色と言われることもあるが、好意的に描いていたように見えたが、意味があるのか。

○**ブライア** ニュージーランドは緑（自然）が多いので、その象徴として使いたかった。三原色の一つとして、緑は大地、赤は火、青は水、自然界を表す象徴的な色として使っていました。

○**参加者** 出演者は全員俳優なのでしょうか。

○**ブライア** プロじゃない人ももちろんいるが、メインは俳優です。俳優をしながら副業をしている人もいます。

質疑応答の時間が終わり、ここで、通訳者のアン氏よりサプライズの時間となる。男性2人、女性1人が登場し、アン氏も加わった4人で、タネマフタ氏とブライア氏のためにハカの実演のプレゼント。

記録：櫻井拓見

写真：おたこうじ



全員で輪になって手を繋ぎ、終わりのお祈りを行う。

72

○実行委員 お時間になりましたので、これで終了とさせていただきます。みなさまどうもありがとうございました。

